

□特集・總持学園□

大覚円成・報恩行持

——鶴見大学の教育の目指すもの——

鶴見大学学長 高崎直道

鶴見大学は学校法人名を總持学園と申します。これは本学が曹洞宗の大本山總持寺によつて設立された学園であることを示すものです。(ですから總持寺学園といえ、もっとわかりやすいのだ、という声もあります。)鶴見は言うまでもなく横浜市の鶴見という所在地を示す名です。JR京浜東北線の鶴見駅のすぐそばにあります。御本山のお隣りでいつもその大祖堂の臺を仰ぎ、

眺めつつ学んでおります。学園は大正十三年高等女学校の設立にはじまりますが、高等教育機関としては昭和二十八年、鶴見女子短期大学の設置を出発点としております。次いで昭和三十八年に鶴見大学文学部、昭和四十五年に同歯学部が設置され、現在は文・歯二学部(それぞれ大学院研究科博士課程併設)と短期大学部より成り、また、近年、短大部の歯科衛生科を除い

て、すべて男女共学になりました。

（本学の歴史を出発点に遡って考えるとき、女子の高等教育を指すという目標を忘れることは出来ません。これは總持寺の御開山、瑩山紹瑾禪師が、歴代の祖師の中にあつて、とくに女人の救済に力をつくされたという伝承にもとづき、その精神を現代に活かそうという理念によつて学園が設立されたことによります。これは学園の初代校長・学長たる中根環堂師の堅い信念の発露でもありました。現在は、社会の要請に応じて、男子にも漸次門戸を開くに至ったということです。）



上のような事由によつて、本学の教育の基本理念も、おのづから、仏教とくに禅の教えにもとづいたものとなり、ます。初代環堂学長は

それを「大覚円成・報恩行持」の二句八字によつて標示されました。

大覚円成・報恩行持とは、どんな意味か。大覚とは、大いなる目覚め、ということ、^{がく}報恩の菩提樹下でのお悟りのことをさしますが、同時に、それを成就された釈尊その人をさして大覚とよぶこともあります。ここではさらに、その仏のおさとりを、われわれひとりひとりが自らのものとする（それが可能であることは『涅槃経』の「一切衆生悉有仏性」の句によつて示されている）を「大覚の円成」とよんでいると解せられます。

では具体的に、われわれはどういう実践によつて大覚の円成をめざすことになるのか。それをわたくしは、曹洞宗が日常読誦用の聖典として、開祖道元禪師のお言葉（『正法眼蔵』その他）から選んで編集した『修証義』ののつとつて、菩薩の四摂法（布施、愛語、利行、同事）の実践

に求めて、説明しております。菩薩とは発心、すなわち菩提にむけて心をおこしたものの、の意ですが、その発菩提心を『修証義』では「己れ未だ度らざる前に一切衆生を度さんと発願し営むなり」と説明し、その「衆生を度し、衆生を利益する」方法として、上の四項目を挙げています。わたくしはこの四項目の実践を、わたくしどもにとつて、また、学生さんたちにとつて、わかりやすい実践目標として掲げている次第です。（四項目の中で、さらに、私は「愛語」すなわち、他人に慈愛のこもったことばをかけるこ



と、と、「同事」すなわち、他人の身になって考えることを、現代人にやや欠けている、しかしなくてはならない大事な徳目として強調しております。）

そして、この四つの徳目の実践に毎日つとめることが、そのまま、釈尊の教えに報いる所以であると、『修証義』そのままに説いている次第です。

鶴見大学に学ぶ学生諸君はどこか他の大学の卒業とちがう、といわれることを、ひそかに期待している次第です。